

田村市×獨協大学

ちょこっと

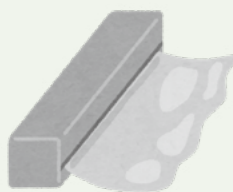
エコライフ ~身近な省エネを実践しよう!~

vol.33 エシカルラップを使ってみませんか?

今回は、日常の料理や食べ残しの際に誰もががお世話になっている食品用ラップ（主に家庭密封用ラップ）のお話をしましょう。環境省の「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査」では「ラップ・ネット」に分類され、2024年度のごみ占め割合は湿重量比で0.1%と微少です。過去に問題視された、ダイオキシンや内分泌かく乱要因（環境ホルモン）の心配もほとんどなくなっていますが、マイクロプラスチックとなり海洋汚染につながる懸念は残ります。



近年、食品用ラップの代替品として、プラスチックフリーで繰り返し使える天然素材の「エシカルラップ」が登場しています。ここでは2つ紹介しましょう。布に天然の蜜蝋を染み込ませた「蜜蝋ラップ」は、電子レンジなどで温めはできませんが、その分プラスチックラップにはない保湿性と通気性をあわせ持ち、野菜を長持ちさせるのに適しています。天然の抗菌成分であるフラボノイドを含み、安心して使える点も特徴です。また、「シリコンラップ」は100円ショップなどでも手軽に手に入り、すぐ始められます。シリコンラップの使用期限は商品にもよりますが、破損がなく、密着力が残っている間は使うことができ、平均的には1年、長いものは5年も使うことができるそうです。ただし、シリコンラップは生分解せず、廃棄時は焼却することになるので、環境負荷はあります。



一つひとつは小さな取り組みでも、毎日の積み重ねがごみやマイクロプラスチックの削減につながります。それぞれの特徴を踏まえて使い分けることで、無理なくエシカルラップを取り入れてみませんか。

(獨協大学交流文化学科3年 有泉)



食品用ラップの種類とそれぞれのメリット・デメリットについてはこちらから▶

今月のごみ量 (2月分)

- 1日1人あたりのごみの量：587g
- 田村市のごみの量の目標：750g
- 今月は目標達成！ ※1月のごみの量と比べて、147g減！



市営住宅入居者募集

●入居者資格

- ①同居、または同居しようとする親族があること
- ②世帯の所得が基準額を超えないこと
- ③現在、住宅に困窮していること
- ④市税を滞納していないこと
- ⑤暴力団員でないこと

●申込方法

5月15日(金)～5月29日(金)までに建設部都市計画課または各行政局産業建設係に備え付けの申込書に必要な書類を添えて、申し込みください。必要書類や所得基準などは、お問い合わせください。

●抽選会 同一の市営住宅に対して複数の申し込みがあった場合は、抽選会を開催します。

抽選会は、市役所で6月15日(月)に一般公開にて開催予定です。詳細は申し込みをされた方へ通知します。

※その他、随時申し込み受付可能な団地もあります。詳しくは、お問い合わせください。

☎建設部 都市計画課 ☎82-1114 各行政局 産業建設係

▼入居者募集中の団地 ※家賃は所得に応じて金額が変わります。

地域	団地名	部屋番号	建築年	間取	家賃	駐車場
大越	久保田団地1棟	204号(2階)	昭和54年	3DK	12,200円～49,100円	有
滝根	広瀬団地	4号(1階)	昭和54年	3DK	11,100円～40,800円	有
滝根	神俣団地1棟	4号(1階)	昭和57年	3DK	14,600円～48,300円	有
船引	下扇田	21号(3階)	昭和56年	3DK	14,100円～41,700円	有
船引	馬場団地2棟	12号(2階)	昭和49年	3K	10,200円～28,000円	有

地域おこし協力隊奮闘記



農家を目指して。

初めまして、就農型地域おこし協力隊の吉田有毅です。田村市での新規就農を目指し、令和7年11月から活動しています。これまでは、北海道や茨城で稲作、露地野菜を中心に栽培する農業法人に勤めていました。その中で、農家として生活してみたいと思うようになり、独立新規就農を目指す就農型地域おこし協力隊に応募をして、昨年の秋に田村市に移住をしました。

現在は、田村市内の県認定研修農家の下で日々研修を受けています。農業法人に勤めていた時はまた別の農業の面白さや難しさを日々感じています。

任期中は、農業研修や勉強会などに参加して農業の知識や経験を



増やしていきたいと思っています。また、農業のことだけでなく、田村市のことももっと知っていければと考えていますので、交流会や地域の行事などがある際には、ぜひお声がけください。

田村市で農家を目指してこれからも活動を続けます。どうぞよろしくお願ひします。

▼吉田有毅 プロフィール
茨城県出身。移住前は北海道や茨城県の農業法人に勤務。新規就農について考えるようになり、田村市での農業体験や各種イベントを経て、昨年の秋に田村市に移住。

海を越えて 英語指導助手ペンリレー No. 154



ジェシカ・ホプキンスさん
アメリカ合衆国・オクラホマ州出身
(田村市に来て2年目)

一年が終わり、新年度が始まりました

日本に来てから一年が経ちました。たくさんの方に出会えたり、親切です。外国人指導助手として温かく迎え入れ、日本について教えてくれた学校や生徒の皆さんに心から感謝しています。いくつかの都市を訪ねましたが、船引の静かで見守りやすい雰囲気、とても満足しています。料理をする機会が増え、ハイキングにも行くようになりました。都路へのバス移動や、友人たちと近くの都市へ車で出かけた時など、日本の自然の美しさに圧倒されています。新年度が始まり、日本語の勉強を続け、もっと自信を持って話せるようになりたいです。学校の生徒や先生方をもっと知ることができると、今からとても楽しみにしています。昨年は入学式に間に合わなかったため、今年も参加できるのがとても楽しみです。

今年、友人と何度か旅行に行きました。特に、いわき市の水族館に行ったのが楽しかったです。アメリカの水族館は屋内が多いので、ハナ先生と私は水族館の中で寒くて凍えそうでした。でも、アシカをはじめ、たくさん動物たちを初めて見ることができました。それから、5年ぶりにハイキングにも行って、片曾根山に登りました。ジェシー先生は歩くのがとても速いですが、頂上からの眺めは素晴らしいです。とても気持ちの良いハイキングで、天気も最高だったので、その日に行っただけで良かったです。

3月に出席した小中学校の卒業式は、アメリカの卒業式とは全く違いました。高校の卒業式に似ているところもありますが、それでもかなり違います。アメリカの卒業式でも涙は流れますが、それは嬉しい涙です。友人や先生方と過ごした学校生活が終わってしまうのは寂しいですが、新しいページが始まることにワクワクしています。地域社会や家族にとっても、喜びにあふれたお祝いの時です。卒業式も楽しかったですし、それぞれに素晴らしいものでした。

